

2016年度 第2回埼玉税法研究会報告（聖学院大学 総合研究所/埼玉税法研究会主催）

著者	柴田 武男
雑誌名	聖学院大学総合研究所Newsletter
巻	Vol.26
号	No.2
ページ	28-29
URL	http://doi.org/10.15052/00002959

聖学院大学総合研究所 / 埼玉税法研究会主催 2016年度第2回埼玉税法研究会報告



上段：会場内の様子 下段：懇親会の様子

2016年10月29日に第二回埼玉税法研究会を開催しました。政治政策学研究科税法コースの担当教員を中心に、こうした会の最初は2015年9月に開催された平石雄一郎聖学院大学名誉教授の就任記念講演会ですが、これを契機に、埼玉税法研究会を設立して2016年4月に第一回を開催して今回が第二回となります。

埼玉税法研究会は講演会形式で行ってきましたが、今回からは研究会としています。税法研究の研鑽と親睦とを目的にしていますから、継続的な研究会活動を表面に出しました。院生の修論執筆の刺激となるようということも主眼ですが、この時期まだ修論報告とはなりません。「修士論文構想報告」という表現にしたのは、基本的な構想を骨格として確立しないと何事も始まらないからです。論文を書いていると、迷路に入り込み、焦燥感にとらわれます。一体何をテーマにしているのか、そのために何を書けばいいのか、書き進めると逆に迷いが出ます。そのときに立ち戻るのが、論文構想です。それも、多くの人の前で発表し、コメントされる、その機会が大切だというのは、私の研究生活でも多々あります。今でも、論文を書いて院生と同じ悩みを感じます。その経験から、まずは論文構想が大切です、ということです。

お手本として、教員からの基調講演があります。

今回は、木村裕二政治政策学研究科特任講師による「税法周辺の法」でした。「1990年から2013年まで弁護士。地下鉄サリン事件被害対策弁護団員、KKC被害対策弁護団事務局長、全国ヤミ金融対策会議事務局長、日本弁護士連合会消費者問題対策委員会副委員長など」というのが木村先生の略歴ですが、2006年には第164回国会衆議院法務委員会で「改正組織犯罪処罰法及び被害回復給付金支給法」について意見を述べるといふ輝かしい実績があります。現在は、弁護士資格を停止して、本学で教鞭を執られています。

院生から、相続税法はなんとか分かるが、相続法そのものは勉強しないので現実に対応出来るのか心配だという声を聞いて、なるほど、税法だけでは実務はこなせない、関連法律をそれも実務豊富な法律家から教える事が大切と思い、木村先生にも講師陣に加わっていただきました。

埼玉税法研究会は税法への理解を深めるだけでなく、ネットワーク機能も重視しています。それで、今回は懇親会を宮原駅近くの人気焼き鳥店一番鶏に設定しました。懇親会は人数の設定等大変なのですが、院生が対応してくれまして、事務局としては大変楽できました。さすが、未来の税理士たちと思ったのが詳細な会計報告です。とても感心したのと、懇親会の様子が分かるので紹介しておきます。

税理士の資格をとるのは難解な試験五科目合格という大変なハードルがあるのですが、税理士になってからも厳しい競争があり大変です。それを支援するためにも、埼玉税法研究会の規約を改正して、「(常任幹事) 政治政策学研究科税法コース修了生で税理士を開業し、埼玉税法研究会に参加実績があり、常任幹事就任を希望する者は事務局会議の議を経て常任幹事とする。常任幹事は、名刺等に於いて埼玉税法研究会(吉川保弘会長)常任幹事という肩書きを用いることが出来る。」としました。ビジネスで、特に若いときには名刺の肩

書きがとても大切です。名刺の一行から話題が広がります。埼玉税法研究会を話題にいただけたら、本学の宣伝にも本人のアピールにもなります。是非、税理士で活躍する卒業生に活用して欲しいところです。

今後の課題としては、外部とのさらに活発な交流です。二点考えています。一点は、地元埼玉の税理士会との共催です。もう一つは、他大学との交流です。同じ税法コースを持っている大学は近辺にあります。院生から他大学ではどんなテーマ

で修論を書いているのか知りたいという声があります。ライバル同士、切磋琢磨して院生に良い刺激となるように進めたいと考えています。院生の声に耳を傾けて、与えられた課題を一つずつ果たしていく所存ですので、これからもご支援のほどよろしく御願い申し上げます。

(文責：柴田 武男 [しばた・たけお] 埼玉税法研究会事務局長 聖学院大学大学院政治政策学研究科教授)

平成 28 年度 第 1 回税法研究会懇親会会計報告書

懇親会参加人数内訳

教員	7
院生	16
卒業生	3
外部関係者	0
合計	26

費用分担割合 (基本)

参加者	金額
教員	10,000
院生	2,000
卒業生	2,000
外部関係者	0

収入の部

参加者内訳	人数	一人あたりの金額	合計金額
教員	6	10,000	64,000
	1	4,000	
院生	16	2,000	32,000
卒業生	2	2,000	5,500
	1	1,500	
外部関係者	0	0	0
合計	26		101,500

支出の部

項目	数	単価	合計金額
コース料理 (飲み放題込み)	25	4,000	100,000
飲み放題のみ	1	1,500	1,500
合計	26		101,500